

## 関西経済界と関西広域連合の意見交換会

日時：平成27年1月22日（木）

午後0時30分～午後3時00分

場所：大阪府立国際会議場12階特別会議室

### 開会 午後0時30分

○事務局長（中塚則男） それでは、ただいまから関西経済界と関西広域連合の意見交換会を開始させていただきます。私は、本日の進行役を務めます関西広域連合事務局長の中塚と申します。よろしくお願いいたします。

本日、ご出席の皆様につきましては、別紙1、別紙2、それぞれ参加者名簿、配席図を用意しておりますのでご確認いただきたいと思います。

あわせて、関西広域連合の側から3種類、関西経済連合会様から1種類の資料をいただいております。これらにつきましても、本来であれば、個別に説明すべきところでもありますけれども、なるべく多くの時間を意見交換会に割きたいということでございますので、割愛させていただきたいと存じます。

それでは開会に当たりまして、まず、井戸連合長よりご挨拶を申し上げます。

○広域連合長（井戸敏三） 意見交換会の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

新年になりまして、もう二十日がたちましたけれども、大変ご多用の中、このような機会を設けさせていただきまして、またご出席を賜りまして、ありがとうございます。

このような機会は、非常に貴重な機会になると、このように確信しております。

昨年度から、関経連のほか5団体の皆様に加えて、滋賀県、和歌山県、鳥取県、徳島県の経済団体の代表の方々にもご出席を賜っております。お礼を申し上げますとともに、幅広い意見交換になることを期待しております。

関西広域連合でございますけれども、私も連合長を引き受けさせていただいて3期目に入りました。3期目ということは、1期2年でございますので、5年目になったということでございます。関西広域連合の歩みも、既に4年経過をして、5年目に入っております。

ご案内のように、防災ですとか、観光・文化でありますとか、ドクターヘリでございますとか、国家戦略特区とか、国際戦略総合特区などの特区を中心とします関西全体としての取組ですとかは、その実を上げている、また上げつつあるわけでございますが、やはり関西広域連合が目的といたしました関西全体で取り組むべき事業に取り組んでいくということとあわせて、国との関係で、さらに分権化を進めるという、もう一つの大きな課題もあったわけでありましたが、これはなかなか相手のあることもございます、進展の実を上げているとは言えない状況になっております。

ただ、一方でご承知のように、地方創生という形で、国全体としての人口減少対策と、それから東京一極集中の是正という大きな目標のために、どのようなことを進めていくかという大きな課題が出てきております。そのような中で、やはり私は関西が非常に重要な役割を果たすべきだと、特に防災の面では、東京の直下型地震なども懸念されているわけでありますので、できるだけ早く関西を、我々が主張しておりますように、首都機能のバックアップをする地域だということに国として位置づけていただく必要があるのではないか、このことを阪神・淡路大震災から20年を迎えました今の時期だけに、強く国に対して理解を求めていく必要があるのではないかと思っております。といいますのは、東京は全くそういう危険について真剣に取り組もうという空気が全く見られません。それで本当にいいのかということを問うていく必要があるのではないか、このように考えているものでございます。

また、今日の午前中、ワールドマスターズゲームズ2021の組織委員会の常任委員会を開催させていただきました。第1回目の会合であったわけでありますが、森会長からも、もっと人口に膾炙していくような努力をして行く必要があるのではないかとい

うご指摘を頂戴したところでもあります。

少しずつ盛り上がるというよりは、理解が進みつつございますけれども、さらに努力をしていきたいと考えております。

これからの関西、どうなっていくのかということで、五百旗頭先生を座長とする展望研究会を開催させていただいております。メンバーの皆さんからは、やっぱり関西、東京のまねをするのではなくて、「関西らしさ」というものをどう発揮させていくか、そういう仕組みやシステムをどうつくっていくかが非常に重要なのではないかとのご指摘をいただいているところでありまして、しかし「関西らしさ」って何だとか、いろいろな見方があるわけではありますが、それを具体的な手法にまで高められるかどうかは問われているのではないかと、このように思っております。

それから、国家戦略特区や国際戦略総合特区でございますが、関西イノベーション国際戦略総合特区では49のプロジェクトにつきまして政府認定を獲得いたしております。これは他の区域に比べまして断トツの1位でございます。また、PMDAの関西支部も設置されております。国家戦略特区におきましても、健康・医療分野における国際的イノベーション拠点、チャレンジングな人材の集まるビジネス環境を整えた国際都市を目標として指定されているものでございます。いずれにしましても、エネルギーですとか、健康ですとか、医療とか、これは関西の特色でありますので、これをさらに生かしていくような対応を規制緩和や税制・金融支援を中心といたしまして、後押しをし、伸ばしていきたい、このように考えているものでございます。

今後とも、私どもといたしましては、関西に関連する共通課題に対しまして、できるだけスクラムを組んで、推進役になっていきたいと考えております。そのような意味で、経済界の皆様とともども、産官一体となった取組をしていきたいし、していくべきだと考えておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げたいと思います。

最後になりましたが、今年1年、ひつじ年ですので、平安で平らかな年であってほしいと思いましたが、イスラム国による誘拐事件や、あるいは私どもでは城崎温泉で

犠牲者も伴う大火事が起きてしまっております。そのような意味で、羊だから安心するなという警鐘ではないかと思えますけれども、今年1年も十分に、いろんな事柄が起こるかと思えますが、対応力を持って、したたかに臨んでいきたいと考えております。最後にその決意を申し述べまして、私の冒頭のご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局長（中塚則男）　引き続きまして、関西経済連合会、森会長からご挨拶を賜りたいと存じます。よろしくお願いいたします。

○関西経済連合会会長（森　詳介）　関西経済連合会の森でございます。本日は井戸連合長をはじめ、知事、市長の皆さんには、本当にこの関西の経済界との懇談の機会を賜りまして、誠にありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

既に、昨日からテレビとか新聞で報道されてますけども、昨日、リニア中央新幹線の全線同時開業の推進協議会を開催いたしました。そこで、国やJR東海に提案する内容につきまして、松井知事、橋下市長とも議論をさせていただきました。リニアの全線同時開業の重要性というのは、これはもう言うまでもないことだと思います。井戸連合長には、昨年ちょうど推進協議会の設立時にも、来賓としてお越しいただきまして、励ましの言葉もいただきました。これからが同時開業に向けての取組も正念場にかかってくると思います。我々も全力で取り組みますが、皆さん方のご支援も欠かせないと思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。

本日は、まず関西の各経済団体から、今日は幅広い地域から出席させていただいておりますので、まずお話しさせていただきます。その後、意見交換ということにさせていただきます。

先ほど、井戸連合長からもお話がありましたように、政府の地方創生がこれから本格化していくと思います。そういう中で、府県の枠を超えた広域の視点でどのような官民連携を進めていくかということは地方創生、この取組を成功させるためにも必要

だと思しますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

最初に、まず私のほうから2点申し上げたいと思ひます。

1点目は、広域観光についてですが、昨年7月に関経連と広域連合さんとの合意に基づきまして、「はなやか関西」のシンボルマークを策定いたしました。本日も、皆さんつけていただけてると思ひますけれども、そのほかにも関空の到着ロビーにも、大型ビジョンでこのシンボルマークの動画も活用いたしております。これまでのご協力に感謝申し上げますとともに、これからもこのシンボルマーク、「はなやか関西」のシンボルマークをぜひ活用していただけて、「関西」というブランドを世界に広めるためにご支援いただけたらと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

それからまた、現在は広域連合の皆さんとともに、関経連の広域観光研究会で、「関西広域観光戦略」策定を進めております。2019年のラグビーのワールドカップ、2020年のオリンピックですね、それから2021年のワールドマスターズゲームズ、これらを中期的なターゲットにいたしまして、具体的な目標を立てるとともに、関西にかかわる地域ブランドの向上、インバウンドの促進のための取組をしっかりとやっていきたいと思っております、その戦略を今月中にも取りまとめることにしたいと思っております。

皆さんのお手元に資料として、資料4という形で、簡単な概要をお配りしておりますので、また後ほどご覧いただけたらと思ひます。戦略をつくっただけではだめなんです、これをどう実行していくかということがポイントになってきますけれども、そのためには、皆さん方、自治体並びに経済団体の連携した取組は不可欠だと思ひますので、ぜひご理解・ご協力賜りますようお願いしたいと思ひます。

戦略の推進体制につきましては、7月の意見交換会での合意に基づきまして、関西広域連合と、それから関西地域振興財団、そして関経連の三者による検討会を先月から開始しております。皆様のご意見を伺いながら、できるだけ早く取りまとめていきたいと思っております。

本日は、この推進体制を含めました戦略へのご意見もお伺いできたらと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。できるだけこの戦略を共有して進めたいと思ひておりますので、その点からもできるだけ皆さん方の意見も取り入れたいと思ひておりますので、ご意見いただけたらなと思ひております。

それから、2点目は、国土形成計画についてであります。

今年の夏ごろには、国土形成計画の全国計画が策定されまして、来年度には各地域の広域地方計画が策定される見込みになっております。関経連では、こうした動きに合わせる形で、今年度中に今後の国土政策にかかわる提言をしたいと思ひております。具体的な検討はこれからになりますが、東京一極集中の是正とか、都市部と周辺部がそれぞれの個性を生かして発展するための政策など、関西の持続的な発展につながるための国土政策を国に対して提言していきたいと思ひております。

当然のことながら、その中には皆さん方、関西広域連合の皆さん方のお考えも、ぜひ含めて入れたいと思ひております。

関西広域連合では、関西圏域の展望研究会において、「大都市・拠点都市のあるべき姿」とか、「多自然地域での心豊かな暮らし」などの検討を進めておられます。その考え方やアイデアにつきましても、今回の提言の参考にさせていただきたいということで、既に事務局間の間では、お話しさせていただいておりました。そこでの検討の状況につきましても、我々ご教示いただいております。本日は、関西圏域の展望研究会における検討内容や、その他にも地方創生の観点から関西として主張すべき点などにつきましても、皆さん方のご意見を賜ればと思ひておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

最後に、本日は本当にお互いに忌憚のない意見交換ができ、関西の発展につながるきっかけにできたらと思ひておりますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。私からは以上でございます。

○事務局長（中塚則男）      ありがとうございます。

それでは、ただいまから意見交換に入りたいと存じます。進め方ですけれども、まず各経済団体の皆様からご発言をいただきまして、全てご発言をいただいた後に広域連合各委員から発言させていただきたいと存じます。その後、時間の許す限り自由な意見交換の場とさせていただければと考えています。

それでは、僭越ですけれども、私のほうから順次進めさせていただきます。

まず、大阪商工会議所、佐藤会頭、小嶋副会頭から、よろしく申し上げます。

**○大阪商工会議所会頭（佐藤茂雄）** 今、井戸連合長がおっしゃいましたように、「関西らしさ」というのをどう具体的手法でやっていくかという、ここが一番問われていると、こう思っております。総花的にビジョンとか、関西はこうあるべきだとかいう段階はもう過ぎておりまして、例えば、仁坂副連合長の和歌山県へ昨年、中国の方々をお連れしたら、「今までなかった関西の魅力だ。大変感激した」という言葉をいただいたわけですが、そういったように、関西というのは各県、各都市によって、みんな近接してるんですけど異なった個性、一つ一つの輝いた魅力を持っているところであります。「関西らしさ」と言えば、一つ一つ、その魅力のあるのが関西らしさであります。それをどう一つにくくって、「関西らしさ」というふうに打ち出していくのか、大変難しい問題だと、こう思っています。

そこで、具体的手法ということになると思うんですが、商工会議所として、今一番、必要に迫られているのは、個々の輝きを持ったエリアの活動を具体的に広域連合が支援いただくこと、それが一番ありがたいんじゃないかと、こう思っております。

例えば、昨年も大橋会頭からご相談を受けて、よし、一緒にやろうじゃないかと申しましたのは、G8、サミットです。そういった具体的な問題について広域連合が支援する、後押しする。これは神戸だけの問題だ、神戸がやったらいいというんじゃないで、全体でどうやって支えていくか。あるいは京都のスポーツ・文化の世界会議におきまして、これは京都だけに任せておけばいいという問題じゃないわけでありまして、広域連合として、どうやってお支えするのかという、そういったことをぜひこ

れからやっていただきたい。それがさっき連合長おっしゃいました推進機能としての広域連合だと、こう思ってるわけであります。

とりあえず、そう申しまして、また後ほどチャンスがありましたら申し上げたいと思います。よろしくお願いします。

**○大阪商工会議所副会頭（小嶋淳司）** 同じ商工会議所に籍を置いておりますので、同じ意見のところ随分あろうかと思えます。とにかく具体的な事業を着実に推進されているということにつきまして、かねがね評価させていただいているわけですが、予算とか人員が少ない中では、活動自体に一般住民を巻き込むというふうなことができないのではなかろうかと思えます。

広域の利点を実感して理解を深めるようになってくれば、一般の市民も参加したいということにつながっていくのではなかろうかと思えます。そのためには、成果を具体的な事例、もしくはその数値や金額といったわかりよいものに明示して、そのメリットを積極的、継続的に住民に広報していくということによって、一般市民からの参加意識も起こってくるのではなかろうかと思えます。

それと同時に、予算とか人数に限られるということも踏まえまして、経済団体だとか、民間企業が実施している事業などとできる限り連携していくということで、むしろ連携というよりは活用するというふうな形に持っていったらと思います。そのために、若干の委託金とか補助金を支給するというような工夫も必要ではなかろうかと思えます。

それから、権限移譲でございますが、先ほどもございましたが、バックアップ機能の受け皿の役割の強化ということを追うべきだと思いますが、その過程で、例えば文化庁は関西とか、あるいは中小企業庁は関西とか、まず先行して、具体的にそういった一、二の省庁を、あるいは二、三でもいいんじゃないかと思えますが、そういったものを関西に持ってくるということも一つの方法ではなかろうかと思えます。

今、地方創生が、政権の課題になっているのですから、一番のチャンスが来ている



ということではなかろうかと思えます。政府に働きかけるといい機会になるのではなかろうかなと思えます。

それから、構成府県市を束ねる力というのは先ほど来話題になっておりますが、県とか市が持っている権限についても、広域連合へ積極的に切り出していく必要があるんじゃないかなと思えます。そういった意味で、移管すべきものを今しっかりと具体的に洗い出していただければと思ったりしております。

それから、具体的に例えば次世代の産業育成とか、観光なんかを取り上げたら、これは府県単位ではちょっと小さ過ぎて、そして国際的な競争を勝ち抜けない、戦えないというふうなことがあるのではなかろうか。そういった意味で、関西単位で競争戦略を立案・遂行していくということに、むしろ積極的に移していくべきときではなかろうかと思えます。

それから、ちょっと長時間になっていかなのですが、ライフサイエンス、メディカルの分野で、大阪商工会議所は大変継続的にマッチングシステムをとっております。これは、例えば次世代医療システム産業化フォーラム、あるいは創薬の開発に対しては、創薬シーズ基盤技術アライアンスネットワークというふうな形で、産学連携の全国的なプラットフォームを持っておりますが、これを継続的にやっていくということと、2月に関西広域連合が実施されますメディカルジャパンといった大きな催しを複合して、国家戦略特区を実のあるものにしていくために、今動くべきときではなかろうかと思えます。

それから、ツーリズムも随分変質してきていると思えます。個別の観光スポットで考えるよりも、ルートとして取り込むことが必要です。そういった意味での連携というものが具体的に思えておられます。それと、無形文化遺産、あるいは有形の文化遺産、世界遺産ですね、そういったものを十分に活用していったらと思えますが、無形文化遺産のほうは、ちょっとスポットが当たりにくいということがあるんじゃないかなと思えます。関西でしたら能楽とか人形浄瑠璃、歌舞伎、あるいは

雅楽などがあるわけですが、特に地域の行事ですね、祇園祭とか、奈良の題目立、あるいは那智の田楽ですね。こういった本当に素晴らしいものであるにもかかわらず、何かそれを観光資源として使っていくという点に欠けているのではなからうかと思えます。

常設施設で、そこへ行けば伝統芸能、芸術が見られる、体験できるというふうなことがあればと思うんです。これは私は自分で和食屋をやっていますから、よくわかるんですけど、和食も文化遺産として確認されておりますけども、それはどうもインバウンドの増強の柱の一つにはなかなかないと思います。京都でもそうかと思えます。

結局何なのかというと、それをちょっと崩した、いわゆる日常食というようなものの中でしか、それを表現できていないというのが一つ大きな問題だろうと思います。

もう1個だけ言わせていただきますと、関西がスポーツの聖地だということもあると思います。アメリカでは、スポーツ医療とか、あるいは大型のスポーツイベントとか、そういったものと観光とかを総合して、町ぐるみでそれを打ち出していくというスポーツコミッションが市町村レベルで実行されているところがあるんですが、こういうものが一体化されて、地域に活力を生んでいくということ、だから地域が燃えるんですね。大リーグでも、ホームグラウンドの応援はすごいんですけど、敵地へ行きますと、もう大変なハンデがあるというぐらい、身びいきで応援をする。だから高校野球のように盛り上がってくるということがあるんだと思いますが、それをもっと広げて総合的なものにしていくということがあればと思います。

以上で、意見とさせていただきます。ちょっと長くなりまして恐縮でございます。

**○事務局長（中塚則男）**      ありがとうございました。

それでは次に、京都商工会議所、立石会頭、よろしく申し上げます。

**○京都商工会議所会頭（立石義雄）**      私からは、関西圏の地方創生と、広域インフラ整備の2点につきまして発言をさせていただきます。

ご承知のとおり、いよいよ安倍首相による改革断行国会が始まったわけでございま

す。ぜひ、それと連動して、広域連合としては、新たなベンチャー企業が生まれたり、経営者が事業を拡大しやすくなるような、構造改革と規制改革の環境整備に軸足を置くべきじゃないかなと、それを申し上げておきたいと思うんですが、地方創生の鍵は何と言いましても、新たな価値を創造する、地方の知恵と活力にあると、このように考えております。中堅企業あるいは中小企業を中心とする地域経済の活性化と雇用の創出、さらに賃上げをいかに実現できるかが大変大切でございます。若者が希望を持って地方で働き、地方で暮らすことができる地域づくりに関西の行政はもちろん、経済界、企業、地域が一つになって取り組む必要があると、このように考えております。

そこで、関西圏が日本の地方創生をリードするために、まさに地方分権改革を担う関西広域連合の真価が問われると考えております。

昨年10月に、まち・ひと・しごと創生本部に対する施策提案を行っておられますが、関西の各地域が広域連携して、地方創生の取組を進めるためには、私はアベノミクスの本当の第三の矢というのは、構造改革、規制改革だと、このように考えておりました、その点に関して、広域連合が果たすべき役割や展開する具体的な施策を明確に示していくべきだと、このように考えております。

また、昨年末に決定されました「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、施策パッケージの一つとして、政府関係機関の地方移転を掲げており、今後、地方の意見も踏まえて移転すべき機関の提案や具体化を図る方針を示しております。

京都では、府・市・経済界が一体となりまして、観光庁と文化庁の移転を国に要望し続けております。また、京都では行政・経済界・大学・文化・観光・地元紙などの各界トップで構成する京都の未来を考える懇話会が、「京都ビジョン2040」という提言を一昨年5月に取りまとめまして、その中で、皇室のどなたかに京都にお住まいいただく、あるいは皇室行事を開催いただく、双京構想の実現を提言しているところでございます。

ぜひとも東京一極集中を是正し、地方分権改革を推進するために、関西広域連合と

しても関西への政府関係機関の移転や、国の機能・権限の移譲をさらに積極的に提言・提案していくべきではないかと、このように思っております。

ぜひ、改革断行国会の俎上にのせるべく働きかけを強めていただきたいというのが一つ。

もう一つは、広域インフラ整備についてであります。さらに首都圏に比べて遅れをとっております交通インフラの整備につきましては、関西の発展あるいは観光戦略の上でも大変重要でございます。リニア中央新幹線の大阪までの全線早期開業、あるいは北陸新幹線の敦賀以西ルート決定、早期延伸をはじめ、日本全体の経済効果や、日本のあるべき姿を見据えた上で、関西の成長にとって最適なインフラ整備を引き続き検討し、国や関係機関に対して積極的にその実現を働きかけていただきたいと、このように願っております。

結びになりましたが、来月、関西財界セミナーを京都で開催されますので、ぜひ引き続き議論を深めることを楽しみにいたしております。

以上でございます。ありがとうございます。

**○事務局長（中塚則男）** それでは次に、神戸商工会議所、大橋会頭、よろしくお願ひします。

**○神戸商工会議所会頭（大橋忠晴）** いつも、関西広域連合におかれましては、地域経済の活力増進に向けて、精力的に活動いただいておりますこと、改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。

今日は、意見とか要望といったものではございませんけども、2件だけ、端的に発言させていただきたいと思っております。

一つ目は、先日、石破地方創生担当大臣と日本商工会議所との懇談会がございまして、その席上で申し上げました政府に対する意見・要望の内容を簡単に報告させていただけたらと思っております。

内容は、地方創生というのは、先ほどからお話出てますけども、地域産業の競争力

の強化というのは、重要な鍵であるのはもう明白でございます。そんな中で、関西圏が先ほどお話ありましたように、国家戦略特区に指定され、規制緩和が進むことで、さらなる発展が大いに期待されています。

規制緩和というのは、私いつも申し上げてますけども、特別なコストを伴わずに、成長戦略を具現化する非常に有効な手段であることから、何ととっても、スピード感のある規制緩和をお願いしたいということをまず一つ申し上げてまいりました。

それから、二つ目は、従来の規制緩和というのは、個々の規制緩和提案を一つ一つ精査して、提出した内容を精査して、その事業ごとの可否を決めるやり方だと追いつかないと、国家戦略特区においては、民間の潜在的な挑戦意欲だとか、あるいは投資マインドをさらに強く刺激する意味では、もう明らかに初めから全面的に、一步踏み込んで、特定の分野とか領域、例えば先ほどからお話出てますようなエネルギー分野、環境分野、医療分野、教育分野など、総括的、一括的、全面的な緩和方針を分野ごとにもう打ち出したらいかがですかと申し上げました。そうすることによって、スピーディーな地方創生にも非常に有効だという考えを持っておりぜひ検討いただきたいということを申し上げた訳ですが、要は、政府は受動的な規制緩和ではなしに、特区の自主性というものが生きてくるような、能動的なといいますか、一括的な規制緩和をぜひご検討いただきたいというのが趣旨でございます。

小泉進次郎さんが出席されており、会議が終わった後、絶対やらないといけないと言っていたので、大臣はおっしゃらなかったですけども、ひょっとしたら何か動き出さないかなと願っています。規制緩和を募集するというのではなく、政府が最初から出していくやり方をお願いしてきたということを報告したいと思います。

それから、二つ目ですが、来年の7月に日本で開催予定しております主要国首脳会議、サミットの誘致に関してでございますが、これは神戸を含む、今現在7都市が名乗りを上げており、ご承知のとおり、私どもも神戸地元経済界も、兵庫県・神戸市とともに、官民挙げて誘致活動を積極的に進めています。関西広域連合の皆様方にもご

賛同いただいているとお伺いしていますし、また先ほど大商の佐藤会頭からもお話のあったとおり、関西経済界からも、非常にそういった強いご支援を賜っておりますし、また京都は大臣会合を考えておられる、立石会頭などとも連携しながら招致を進めておるところでございます。経済界としても、皆様方からのご支援をいただいて、心強く感じているところでございます。ありがとうございます。

できたら、近くよい知らせが届くことを願いつつ、誘致実現に向けた最大限の努力をこれからもまだ続けていく、少し遅れるんですかね、今の状況ですと、決定は。まいりますので、引き続き、特段のお力添えを賜りますよう、この場をお借りしましてお願い申し上げます。

散漫な発言でございますが、よろしく願いいたします。以上でございます。

○事務局長（中塚則男）      ありがとうございます。

それでは、堺商工会議所、前田会頭、よろしく願いします。

○堺商工会議所会頭（前田寛司）      本日、発言の機会を賜りましてありがとうございます。私からは2点お願いしたいことがございます。

まず第1点目、観光振興につきまして、関西、非常にメジャーな観光スポットがたくさんありますが、歴史的な建造物、世界遺産がまず思い浮かばれると思います。いずれも国内外からは非常に高い抜群の知名度と、絶大な集客力を誇ってます。皆さんご存じのように、堺市と羽曳野市、藤井寺市にある百舌鳥・古市古墳群は、関西では2004年の紀伊山地の霊場と参詣道以来、大阪でこれが初めてとなる世界遺産登録を目指しております。当商工会議所といたしましても、2017年世界文化遺産登録を目指しまして、登録に向けたPR活動を非常に強化しているところなんです。もちろん、登録を目指すライバル、非常にたくさんございます。今年は国内推薦を勝ち取らねばならないという大変重要な年になっております。もっと百舌鳥・古市古墳群の知名度を国内外で上げていかなければならないとひしひしと感じております。

そこで、関西広域連合様におかれましては、関西ブランドを国内外に発信する中で、

百舌鳥・古市古墳群のPRにつきまして、積極的にご協力いただきたいと考えております。

来年度、「KANSAI 国際観光 YEAR」は、関西の世界遺産がテーマとなる予定とお聞きしております。恐らく関西の世界遺産にスポットを当てた観光ルートを構築されるものと思われませんが、世界遺産のみならず、関西が誇る国宝、無形遺産など、一体的にPRすることで、新たな関西の魅力や情報発信につながり、観光振興がさらに拡大するものと考えております。あわせて百舌鳥・古市古墳群も将来の世界遺産として、同時にPRしていただければ、登録に向けて大きな後押しとなりますので、ぜひご検討いただきたいと思います。

2点目につきましては、ビジネスマッチングについてですが、堺は非常に中小企業が多うございます。その中小企業の中で、低炭素、環境エネルギーはじめ、幅広い分野で高い技術力、すぐれた製品を有しておりますが、取引拡大につながっていない場合が多々あります。こうした企業のビジネスマッチングや情報発信に対する支援が当商工会議所のほうに求められております。

そこで、当商工会議所では、ものづくりマッチング商談会をはじめ、企業商品を売り込むための商談会や展示会を多々開催しておりますが、直接的な取引に結びつくなど、利用企業からも一定の評価を得られております。しかしながら、こうした商談会の多くは非常に単発的で、小規模な受注、近隣企業が多いのが実情です。ポテンシャルの高い堺の中小企業のため、より安定的で、大口の受注や、全国的な販路開拓への支援を必要としております。そのためには、域外の企業との接点が重要となってきております。その点、堺での商談会開催は、地理的要因やネームバリューの面で、ローカル色が強く、ほぼ地元の中堅企業の参加にとどまる、比較的狭い範囲での取組になっております。そこで、関西広域連合が有するネームバリュー、信用性、広域ネットワークといった特性を域内中小企業の競争力強化、産業集積の維持・拡大に最大限活用すべきであると考えております。域内企業が各地で開催される商談会を相互に利用

できるのみならず、堺をはじめ、地方では呼べない大企業、グローバル企業を広域連合が主体となって集めていただき、各地方で商談会を開催するなど、地方中小企業が、大企業、グローバル企業と商談できる仕組みをぜひご検討いただきたいと思います。

私からは以上です。よろしくお願いいたします。

**○事務局長（中塚則男）** それでは、関西経済同友会、村尾代表幹事、お願いいたします。

**○関西経済同友会代表幹事（村尾和俊）** 関西経済同友会の村尾でございます。私からは、関西の活性化のために、皆様方広域連合と連携し、あるいはサポートいただきながら進めていきたいと考えております、私どもの活動事例を踏まえて発言させていただきたいと思っております。

同友会では、関西地区で指定された戦略特区、それから2019年から21年に連続して行われます三大スポーツイベント、それからリニア中央新幹線の全線同時開業、あるいは関西版のI R等々につきまして、さまざまな勉強をし、活性化のために役立てていこうとしております。その中で、スポーツイベントを契機として関西活性化を図るという観点から、「関西2019・20・21委員会」というものをつくりまして、今、提言書づくりを進めているところでございます。スポーツ会場の確保や宿泊施設の拡充などにより、イベントそのものを成功させることはもとより、交通インフラの整備の問題、特に外国人観光客を多くお迎えするという一方で、フリーWi-Fiの環境整備といったことを広域的にやっていく必要があると考えております。

それから、国家戦略特区の関係で、「農業改革委員会」を設置しております。兵庫県の養父市をはじめ、全国各地の先進事例を視察し、中山間地の農業活性化策を勉強しております。欧米の先進国は、必ずと言っていいほど農業大国であり、年々、輸出額が増大してきている一方で、日本の農業輸出額は増えておりません。私どもも、昨年、台湾とシンガポールを訪れ、農業生産品の輸出拡大に向けて、何が求められているかといったようなことも勉強してまいりました。



また、養父市を訪問した際には、「儲かる農業」をやろうという強い意志を持った方々と養父市とをマッチングさせることも必要であり、地元地銀と大手銀行により組成したファンドによる支援なども紹介させていただいております。

こうした形で関西の中期的なさまざまなプロジェクトを着実に前進・実現していきたいと考えており、今後も活発に活動を続けてまいるつもりでございますので、ぜひ広域連合の皆様方のサポートをいただきながら、あるいは連携させていただき進めてまいりたいと思っております。

○事務局長（中塚則男） それでは、滋賀県商工会議所連合会、大道会長、よろしくをお願いします。

○滋賀県商工会議所連合会会長（大道良夫） 滋賀県商工会議所連合会の大道でございます。私から3点申し上げたいと思います。

まず、官民一体となった誘客戦略とその体制構築につきまして、インバウンド対策といたしまして、今ほど村尾代表幹事さんからもW i - F i の話が出ましたが、滋賀県も遅まきながら、無料W i - F i 環境を整備すべく、私たち商工会議所連合会がS S I Dを取得したところでございまして、来年度早々にも、滋賀県とともに本格的に取り組む予定をしております。

ところで、府県域を越えた広域的な無料W i - F i 環境を考えますと、各府県においてS S I D認証基準が異なっているために、府県を越えると、再度、W i - F i の設定をしなければならず、利用者にとって不便を来すこととなります。

つきましては、W i - F i 利用者の利便性を考え、S S I D認証基盤が相互利用できますように、これは技術的には可能と聞いております。無料W i - F i の環境整備に取り組んでいただきたいと思います。

また、国内旅行者の誘客対策として、交通手段の利便性を向上させるために、鉄道や高速道路を一定額で乗り放題できる多機能交通パスの導入も検討いただきたいと思います。

2点目は、地方版総合戦略の策定につきましてでございます。

平成27年度中に、市町村など各自治体にも地方版総合戦略の策定を求めるとされております。しかし、市町村が総合戦略を策定する際、市町村レベルのミクロの視点だけでは、十分とはとても言えません。府県域あるいはそれ以上の広域なマクロの視点が必要と思われまます。

そこで、観光等、分野を限定してでも市町村の戦略策定に際し、関西広域連合の事業と整合性がとれて、実効性がある戦略が策定できますように、関西広域連合に相談窓口を設けていただきますように提案いたしたいと存じます。

また、地域創生のために、地元市町村とともに汗をかきたいと考えております私ども商工会議所や商工会の各経済団体が総合戦略策定当初から参画できるスキームとなりますように働きかけていただきたいと、このようにお願いしたいと存じます。

最後、もう1点、人口減少化における高齢者の活躍について申し上げたいと思えます。

本件につきましては、関西広域連合と経済団体が高齢者が働けて、関西経済の生産性を高める社会をどのようにつくるのか、議論する場を設けてはどうかという提案でございます。

議論のテーマは、高齢者を雇用する制度の導入企業への優遇策等にはとどまらずに、成長分野や採用意欲のある企業への高齢者の受け入れ支援のあり方、それから技術やノウハウを持った大手企業退職者の方などを中小企業の支援にお願いできないか。あるいはまた、その持つておられる技術やノウハウを中小企業支援、それから地域資源を生かした取組等への支援に生かしていけないか、そのような仕組みを検討する場を設けていただけないかということでございます。

そうした上で、関西広域連合地域の将来像を描いて、国に対し、政策を提言できますように、協議会の立ち上げをご検討賜りたいと、このように思います。

以上でございます。

○事務局長（中塚則男）      ありがとうございました。

それでは、和歌山県商工会議所連合会、片山会長、お願いします。

○和歌山県商工会議所連合会会長（片山博臣）      和歌山県商工会議所連合会の片山でございます。いくつか希望・要望等々、述べさせていただきたいと思っておりますけれども、ご承知のとおり、和歌山県では今年の9月から10月にかけて、「わかやま国体・わかやま大会」が開催されて、多くの競技者、観戦者の方がお越しいただけると思っております。

また、今年は和歌山におきましては、高野山が開創1,200年を迎えるということがございます。この春からいろいろ行事がありまして、大法会が行われるということもございます。これ、チャンスでございますので、和歌山県といたしましては、昨年からのdestinationキャンペーンということで、この魅力を全国的に広くアピールしていただきまして、誘客の促進を図っていただいたところであります。

ただ、たくさんの観光客、それから来県者を迎えるためにも、やはり高速道路網の整備促進が非常に重要であると思っております。特に、これもご承知いただいていることだと思いますけれども、和歌山県では主要な幹線道路が海岸線沿いの42号線だけという、非常に脆弱な状況にございまして、もちろん観光による地域活性化だけではなくて、今年は阪神大震災からちょうど20年目という節目の年、防災に非常に関心が高まっている年ということでもございますので、今後、非常に発生が予測されます東南海・南海大地震について、これの緊急輸送道路ということでの「近畿自動車道紀勢線」と「京奈和道路」の早期整備ですね、これについて、ぜひともサポートをお願いできればと思っております。

それから、観光についてでありますけれども、日本商工会議所で、いわゆる行動指針というのができてるわけでありまして、平成26年度を「観光振興元年」ということで、全国の会議所に担当者を置いて、会議所での観光ネットワークの構築というのを進めておるといっておりますけれども、関西でも、京都の商工会議所、

立石会頭のお声かけで、大阪、神戸、京都、奈良、滋賀、和歌山と、この6商工会議所で、広域観光の推進検討委員会というのができ上がっておりまして、アジアからぜひとも観光客を受け入れようということで、これ24年度には中国、上海と広州ですか、ここへトッププロモーションを行いまして、昨年、25年度には、逆に上海と広州から経済界、あるいはマスコミのトップをお招きして、ファムトリップを実施したということでもあります。

ということで、広域連合におかれまして、この広域観光のルートをいろいろと設定をされておられると思います。和歌山県、この紀南地方の、いわゆる有名な観光地等は取り上げていただいておりますけれども、例えば、関空から非常に近い和歌山市の近くにも、現在アニメファンに非常に興味を持っていただいております「友ヶ島」というのがございますし、あるいは「和歌浦」から「紀三井寺」、「日前宮」等々、この万葉の時代から、ずっと歴史のある寺社とか仏閣等々、こうした名所旧跡も非常に和歌山市の近くにも多くございますので、この辺も一つのプランとして取り入れて作成をしていただければと思います。

それから、現在、和歌山県では県内の各地の景観を楽しみながら、観光振興と同時に健康づくりにつなげていこうということで、サイクリングロードの整備促進を計画されておられるということでございまして、この紀伊半島の沿岸を走る海のルートと、紀ノ川沿いを走ります川のルート、それから高野山を走ります山のルート等々、幾つかルートを設けまして、海、山、川、これを楽しめるサイクリングロード、これ全線800キロということらしいですけども、これを整備する計画を進めておるということでございまして、そのためにも、この利用者が休憩していただいたり、自転車の手入れや修理をするためのサイクルステーション、これを設ける必要がございますので、これ、現在県内の自治体とか、会議所を通じまして、公共施設、コンビニ等々、自転車店等の協力を得まして、ベンチの無料貸し出しとか、修理キットとか、空気入れとか、こういったものを置く予定としているわけでもありますけれども、こうしたサイク

リングロード、ぜひとも府県間を越えた、広域的なサイクリングロードというのを一遍連携として検討していただければどうかなと思います。

特に、関西には自転車産業の集積があります堺市というところがございまして、そういう意味からも、こういった試みをぜひサポートしていただければと思っております。

以上です。

○事務局長（中塚則男）      ありがとうございました。

それでは、鳥取県商工会議所連合会、藤縄会長、よろしく申し上げます。

○鳥取県商工会議所連合会会長（藤縄匡伸）      今年は「地方創生元年」であります  
が、私が年初来、僭越にも言っておりますのは、石破創生大臣の地元でありますので、  
国頼み、石破頼みはだめで、本気で知恵を絞ってやっていきたいと思いますということを言  
ってるわけですが、そうした中で、今年、会議所として、力を入れていきたいことの  
一つが「地域間連携」でございます。

これについて三つお話をしたいのですが、一つは、ジオパークの絡みでございます。  
山陰海岸ジオパーク、これとお隣、島根県の隠岐のジオパーク、これ両方世界ジオパ  
ークでありますので、これの連携を考えていくのはもちろんですが、今度は日本ジオ  
パークに南紀熊野が認定をされましたので、これとの仕掛けづくり、連携を考えてい  
きたい。片山会長（和歌山県商工会議所連合会）、よろしくお話をしたいと思いま  
す。

それから、今年9月には第4回のアジア太平洋ジオパークネットワークの国際シン  
ポジウムが山陰海岸で開催されます。これは京都、兵庫、鳥取、3県の連携を一層強  
めまして、この大会を成功させることと、世界に向けて大きなチャンスですので、P  
Rをしていきたい。よろしくお話を申し上げたいと思っております。

それから、2点目が、これは昨年この場でも申し上げましたのですが、京丹後、宮  
津との連携でございます。これは一昨年、昨年、相互訪問を会議所同士やっております

して、さらに今年は、いわゆる具体的な成果につなげていきたいと思っておるところでございます。

それから、三つ目が、北前船でございます。これは皆様ご案内のとおり、北海道から日本海側を通過して、下関から瀬戸内海に入って、大阪までというあれでございますので、かなり広域に、みんな関係をしてくる。地元の中国5県は全て入りますし、大阪、京都、兵庫、これも入ります。これもフォーラムを毎年やっております、これを鳥取に引っ張ってきたいと思っておりますが、既に今年、来年は決まっておりますので、開催地が、3年後になりますけれども、この辺の仕掛けを考えていきたい。またご協力も賜りたいと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

○事務局長（中塚則男）      ありがとうございました。

それでは、徳島県商工会議所連合会、丸浦副会長、お願いします。

○徳島県商工会議所連合会副会長（丸浦世造）      徳島県商工会議所連合会副会長、丸浦世造でございます。2点ほど発表させていただきます。

現在、国においては、地方創生を看板施策として取り組んでおり、その一つとして、観光振興、地域資源の活用を掲げ、2020年に向け、訪日外国人旅行者2,000万人を目指しております。こうした流れの中、今後、国内各地の地域ブランドの確立や差別化など、地域間の競争がこれまで以上に激化するものと思われまます。

関西広域連合の皆様にも、ここで田舎、もしくは地方の考え方、活動もご認識いただくために、今日は徳島市の会頭ではなく、山間部の会頭としてまいりましたので、発表者の特権として、あえて我が地元を報告させていただきます。

私の地元であります三好市池田町は、徳島県の西部に位置しております。かつて池田高校の球児たちが足腰を鍛えた急な坂道があって、そんな中山間地域であります。また、現在沖縄・北方・科学技術政策を担当されております山口内閣特命担当大臣の地元でもあります。

そんな三好市は、昨年9月の安倍首相の所信表明演説で、三好市の祖谷地域を桃源

郷のような別世界と東洋文化研究家、アレックス・カーの言葉をかりて表現したように、日本の原風景が色濃く残る、本当に田舎の地域であり、徳島県の昨年上半期の外国客が4割増加とも紹介されたとおり、近年、国内外からの注目が集まっている地域でもあります。

私は、地方創生とは、そこの地方に住んでおる住民の誇りの創生というふうに考えておりますが、こういった意味においても、飯泉徳島県知事が提唱されております「v s 東京」としての急先鋒の役割をも果たしたいと考えておるところでございます。

また、同じく三好市の山城町は妖怪の「子泣き爺」で有名な地域であり、鳥取県境港市、岩手県遠野市とともに漫画家の水木しげる氏が会長を務める世界妖怪協会から妖怪文化に貢献した地域として認定されており、昨年11月には、徳島・鳥取・岩手、3県が連携し、「怪フォーラム in 徳島」を開催しました。このフォーラムにも県内外から多くの妖怪ファンが集い、地域の活性化に大いに寄与し、改めて地域が連携することにより、巻き起こるパワーと地域に埋もれた資源・宝発掘の重要性を痛感したところでもあります。

関西広域連合においては、各府縣市にまたがる広域観光ルートを設定するなど、関西ブランドの発信に精力的に取り組んでおられますが、まだまだ関西にも一般的には知られていない、埋もれた資源・宝が数多く存在するのではないかと思います。これら各地域の資源を広域的につなげ、さらに魅力的なルートを設定するほか、共通のテーマにかかわる資源を持つ地域同士が連携するなどして、イベントを開催し、国内外から多くの人を呼び込む工夫を関西広域連合として、ぜひ取り組んでいただきたいと思います。

2点目は、現在、関西広域連合において電気自動車の普及促進に取り組んでおられますが、昨年12月、トヨタ社から燃料電池自動車が発売され、また今年中にはホンダ社からも燃料電池自動車が発売されるようであります。現在は、高額な燃料電池自動車の車両価格も2025年ごろには現在のハイブリッド車と同等の車両価格を目指してい

ると聞いております。これが実現すれば、究極のエコカーである燃料電池自動車の普及が現実のものとなります。今後見込まれる燃料電池自動車を利用する観光客やビジネス客を他の地域に先んじて取り組むため、水素ステーションを関西全体で合理的に配置すべきと考えます。関西広域連合で積極的な取組を切に期待したいと考えております。

以上です。どうかよろしく願い申し上げます。

○事務局長（中塚則男）      ありがとうございました。

それでは、最後になりましたが、関西経済連合会、角副会長、沖原副会長、よろしく申し上げます。

○関西経済連合会副会長（角 和夫）      関経連で文化観光を担当しております角でございます。広域観光につきましては、もう既に多くの皆さんからお話ございましたので、少し屋上屋を重ねることになりますけれども、一昨年、インバウンド1,000万人を突破したと思えば、今年は恐らく1,500万人の方が日本にお越しになるであろうというふうに推定されてます。ですから、このスピードにハード・ソフトとも、インフラが追いついていないのが残念ながら現状ではないかと思えます。

その中で、もちろんそのインバウンドの方が日本に來られて困っておられるのは、言葉の問題であり、あるいはW i - F i 等の情報の問題であり、あるいは交通機関の利用のしにくさでありということだとは思いますが、これを近畿経済産業局が中心になりまして、もう一度、インバウンドの方、あるいは外国の方で日本で仕事をされている方、あるいは海外からの留学生の方がどういうふうなことに困っておられるかとか、意識調査をされようとされてますので、ここに民間も一緒になって、もう一度、そこをデータとして押さえた上でスピードを上げていく必要があるのではないかなと思っております。

先ほど、交通、KANSAI One Passというのが、この資料の4にも書かせていただいておりますけれども、来年の春を目指して検討中ではございます。阪



急がインバウンドの方向けに割安のフリーチケットを発売しております、韓国ですとか、台湾ですとか、現地で発売をして、年間約10万枚のチケットが売れております。こういう形で、関西全域が乗れるような、KANSAI One Passというのが、私は個人的にはそれを目指したいんですけども、残念ながら、交通事業者全体では、その値引きということについて合意が得られておりません。ただ、来年の春を目指してますのは、1枚のチケットで、ICカードになると、多分ICだと思いますけれども、それで全て、JRも含めて乗れるような、ICOCAをベースにしたチケットが検討されています。ですから、それは一步は前進なんですけれども、将来的には、やはりインバウンドの方に何とか割引、KANSAI One Passができればなと思っております。ただ、これはなかなか合意形成が難しい問題ではあります。主張はしていきたいと思っております。

それと、先ほど、立石会頭から2月の財セミのお話がありました。財セミで、今回初めての試みとして、第1分科会、第2分科会、この二つで国家戦略特区の地域部会の委員をされておられます井村先生にキースピーチをしていただいた上で、第1分科会、第2分科会で、医療、創薬、まちづくりについての意見交換をしたいと思っておりますので、ぜひとも各自治体の皆さんもご出席いただきまして、ご意見を拝聴させていただけたらと思っております。

以上でございます。

**○関西経済連合会副会長（沖原隆司）** 沖原でございます。関経連で国土広域基盤委員会を担当しておりますので、2点申し上げます。

一つは、今後の国土政策について、もう1点は地方創生ということでございます。

まず、国土政策につきましては、昨年7月のこの会で基本的考え方というのをお話しさせていただきました。10月には具体的な提言を政府、霞が関にも言いました。そのときのポイントは、一つはやっぱり新たな成長エンジンを創出するような国土計画、それから地方経済の実現に資する国土計画、それから、先ほど連合長からもござ

いましたナショナル・レジリエンス、防災のための国土計画というものが基本的な考え方において重要であろうということで申し上げまして、これも先ほど、森会長のほうから話がありましたが、この3月末の年度内に次期国土形成計画への反映を目指して、第2弾の提言を関経連としてもしたいと思っております。

そのときは、中に盛り込む話としては、輸出向け農業の促進であるとか、外国人観光客へのサービスの強化、あるいは高齢者向け医療、介護サービスの拡充など、要は、地方に新しい産業、雇用を生み出すような国土政策なり、政策を進展していくべきだというようなことを盛り込む予定でございますが、いろんなご意見、ご提案をいただければと存じます。

それから、地方創生についてでございますが、これも昨年から議論が本当に本格化しておりまして、各自治体から出てきたアイデアに公金を配るとかいうのが出ておりますので、これは本気でいろんなことをやっていかないかと思っておりますし、お知恵を頂戴したいと思っておりますが、いずれにいたしましても、この地方創生についても、非常に大事な問題は、やはりインフラの整備というのが、やっぱり大事だと思います。物流あるいは人流、そういったものの流れをしっかりとっていくということが非常に大事だと思っておりますので、この辺の出ましたリニア中央新幹線並びに整備新幹線、あるいは本当に、先ほど出ました高速道路ですね、和歌山県と奈良をつなぐとか、そういったものも本当に重要だろうと思っております。

いずれにいたしましても、大変僭越な物言いですが、やはり本当に今大事なのは、国の新たな発展といいますか、それを本当に提言していくようなことが大事なんで、それがいわゆる地方創生でもあるし、防災でもあるし、あるいは新しい地方への雇用の創出だということだと思いますので、関経連、大変僭越でございますが、やはりそのリーダーシップをとっていければいいなと思っておりますし、広域連合も関西のためのというよりも、日本全体のためのお知恵を拝借できればと思っております。

いずれにしましても、繰り返しになりますけども、いろんな観光にしろ、スポーツ

振興にしる、地方の雇用の創出にしる、本当に究極的に大事な話は、私は物流網、交通網の本当に整備だと思ってますので、リニア、それから整備新幹線、空港、港湾、あるいは高速道路、これを本当にやっていくということが大前提にあるんじゃないかと思います。その辺は、ひとつお知恵を拝借したいと思います。

以上でございます。ありがとうございます。

○事務局長（中塚則男）      ありがとうございます。

今まで各経済団体からご意見いただきましたんですけども、この時点で、もし追加・補足等がございましたら。

よろしいでしょうか。

それでは、これより関西広域連合の各委員から、いただきましたご意見等についての発言をさせていただきます。

まず、連合長から総括的なご発言をいただきまして、順次お願いいたしたいと思えます。

○広域連合長（井戸敏三）      大変多方面にわたるご意見を頂戴したもんですから、何をお答え、どうしたらいいのかということで、迷いますけれども、私が気がついた点について、まず広域連合なりの立場でお話を申し上げた上で、各委員から補足をいただければと思っております。

広域観光について、多くの方からお触れいただきました。森会長のご挨拶でも、最初、「はなやか関西」から始まったわけでありまして、広域観光は非常に重要だと思っておりますし、角副会長から言われたように、じゃあ、受け皿が十分本当に整備されてるんだろうかという点になりますと、大変心配な点もないわけじゃありません。特に、ホテルの数などが、実際問題として2,000万人、2020年になったときに、そして関西への回遊率が、今33%ぐらいですけども、それが40とか50とかというようなことになったときに受け入れ可能かなと。もう京都は、例えば秋などになりましたら、もう満杯であふれてしまっているという状況ですし、現にU S Jのハリーポッターが

開幕してから、どこに泊まっておられるかという、神戸まで多くの方が流れてきていると、こういう状況ですので、そういう意味からすると、2021年のワールドマスターズゲームズの受け皿も必要だということを考えましたときに、そういう観光インフラをどう整備していくかと、これやはり計画的に進めないといけないと私どもは考えております。

それから、国土形成計画に提言をしていこうという、関経連の立場での提言をしていこうという点については、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひますし、私ども自身も、それはそれで考えなきやいけません、私どもの考え方も関経連の提言の中にも織り込んでいただきますれば幸いかと思ひております。

ちょっと、広域地方計画の場の設定が遅れがちになっておりますので、この辺についても、ここ、国土交通省の近畿地方整備局のほうともさらによく打ち合わせをさせていただいて、急ぎたいと思ひております。

「関西らしさ」をどう出していくかというのは非常に難しいのでありますが、サミットの誘致につきましては、大橋会頭からもお触れいただきましたし、佐藤会頭からもお触れいただいたわけではありますが、パリでの事件ですとか、ベルギーでの事件ですとか、今回の誘拐事件ですとかというような一連の流れを見ていますと、大変、いわば警備の問題が重要な問題としてクローズアップされてくるのではないかと思ひております。一番重要なのは、警備体制をきちっととれるかどうかということになると思われますので、そういう意味からすると、神戸の会場、ポートアイランドで、島でやろうということになりますので、私は、今の環境は非常に神戸に有利になってきているんじゃないかと、我田引水ぎみかもしれませんけれども、思ひているものでございます。ぜひ、よろしくご推進、ご協力方をお願ひしたいと思ひます。

それと、小嶋副会頭から言われました住民に本当に関西広域連合の活動が理解されているのか、住民をさらに巻き込むような進め方が必要ではないかという点は、実を言ひますと、市町長や、議長さん方の会合でもよく指摘されている事柄でございます

て、この点については、さらに私ども自身もいい方法を検討していく必要があると思っています。

それと、どうしても省庁の一部でも移転をとかいうことではありますが、この点については、文化庁の分室を設けていただいているわけですが、こういう正式な意味での機能の地方分散というのを図っていただく必要があるのではないかと思います。

我々は冒頭、ご挨拶で申し上げましたように、さらに関西を首都機能のバックアップ拠点として、ちゃんと位置づけてほしいということを申しております。最近、五百旗頭先生などは防災庁をつくれと、その防災庁は関西にということをや非常に強く主張され始めておられます。我々も、ポスト20年、阪神・淡路から20年でありますので、このような主張をさらに声を大きくしていきたいと思っているものでございます。

それから、関西広域連合で7事務だけではなくて、広域的に取り組める事務について、もっと取り組んだらどうかというお話でございます。今、俎上に広域計画などにあげてますが、試験研究機関でございますが、試験研究機関、それぞれの府県がワンセット持っているんですが、統合すると、特色のある研究機関化できるのではないかと、もっと専門性が発揮できるような試験研究機関ができるのではないかとということも含めて、俎上に上げていきたいと考えておりますが、これもきっと、どこに何の研究を設置するのかということで、引っ張り合いが出るんですが、そこをまとめるのが広域連合だということになりますので、これは努力していく必要があるのではないかと思います。

それとあわせて、今年ですね、この3月に4年に1回の大規模な医学会が京都で行われます。そして、医療機器の展示が神戸で行われ、大阪では今後の健康をテーマにした大きなシンポジウムを開催することになっております。その前にメディカルジャパンがあるわけでありまして、これらをセットにして、それこそ「医療首都関西」なんだということを強くアピールできるようなことにつないでいき、それで一回的なものにしないで、関西として常に発信していけるような仕掛けをつくりたいとい

うようなことで、井村先生のご指導もいただきながら、広域連合として取り組んでいこうというふうに進めようとしておりますので、ぜひご理解をいただきたいと思いません。

それから、ワールドマスターズに関連して、スポーツを総合的に取り組んでいく必要性、これは先ほどの観光とも軌を一にするものでございますので、スポーツ施設の充実、それから宿泊施設の整備、そしてスポーツそのものは、やはり強くないとなかなか盛り上がらないという点もございますので、ことしは阪神タイガースでも優勝してくれるとアピールするのではないかとこのように思っております。20年ぶりの優勝に、何とか全国優勝、全国優勝は物すごくずれているんですね、星野さん以来、30年ぶりですか。日本一は30年、ですから、非常に意味のある年だと思っておりますので、そのような意味でも、ぜひ盛り上げていただきたらなと思っておりますのでございます。

それから、立石会頭からの規制や構造改革、必要なだけけれども、なかなかスピード感もないし、遅いぞというご指摘をいただきました。我々も、強く主張しているのですが、なかなか相手が動いてくれない。国ってというのは、本当、遅いところですねというのがまず実感なんではあります、悪口を言ったら声が大きくなりましてけれども、そういう意味で、もっともっと、きちんとした主張をしていきたいと思っております。

それと、広域インフラについては、また詳しくコメントがあると思いますが、東京圏と関西圏と比べて何が違っているかという、広域インフラの整備度が全然違います。外環状まで関東圏はでき上がりそうなんです、2020年までに。我々のほうは環状さえもたまたま切れていると、こういう実態でありまして、残念ながら大阪湾があるものから、まんまるくならないという物理的な制約はあるわけですが、ただ、いずれにしても余りにもインフラがずたずたと切れている、これをまずはつないでいくことが非常に重要です。それとあわせてリニアとか、新幹線などの整備をあわせて進めていかねばならないのではないかと思います。

大橋会頭の一点一点じゃなくて、総括的な規制緩和をやるべきだと、私もそう言っておりますし、究極の規制緩和というものは何かというと、その事務そのものを国があれこれ言うんじゃないで、もう地方団体にぽいと任せてしまえと、地方団体の責任で積極的に規制緩和するならする、しないならしないというような形をとることが一番究極的な規制緩和だと主張しているものでございます。

それから、前田会頭からビジネスマッチングの話をいただきました。どのような商談会的な開催をしていくのがいいのか、これも積極的に検討していきたいと思っております。それとあわせて、農業について、村尾代表幹事からもっともっと目を向けろという話をいただきました。輸出競争力のある分野が農業でいっぱいあるんですね。その輸出競争力のある分野を育てないで、平均化しようしようとしてきたのが今までの政策ですので、ようやく強いものを強くしようという動きになってきておりますので、この動きをさらに活性化するように努力をしていきたいと思っております。

それから、大道会長から広域SSIDの機能をちゃんとつくれというお話をいただきました。これ、何度も話題になっておりますが、国自身も統一しようとしたんですけども、なかなかうまくいかなくて、もう民間のほうが一歩先走りしてまして、進んでしまっておりまして、それで今、民間の動きのほうに少し見てようというような感じになっておりますが、ただそればかりではいけないので、例えば、神戸市ですと、神戸市内は無料化しようというような形で、個別の対応も進んできておりますが、それをどうつないでいくかということをぜひ進めていきたいなと思っております。

それから、地方版総合戦略の策定に当たって、相談機能をきちっと高めろというお話も頂戴しました。我々自身もどこまで相談能力があるか心配なしとしませんけれども、情報連絡はきちっとしなきゃいかん。昨日も県と市町村との意見交換会やったんですが、県の総合戦略ができて、それから市町村が総合戦略をつくるようでは遅過ぎると。つまり同時並行的に県も市町もつくるぐらいの共通情報を持たないといけないのではないかという指摘もある市からいただいたところでありまして、これも私から

もそのような方向で考えましょうというふうにお答えをしました。まさしくそうではないかと思います。軌を一にしながら、関西全体と各府県と、そして各市町と、具体化していくように努めていきたいと考えております。

ジオパークについては、積極的に3県共同して進めますし、ジオパークネットワークを進めることが非常に重要だと、このように考えますので、よろしく願いをいたします。

それから北前船のお話は非常に勇壮な話でありますので、我々としてもご参加をさせていただければと思います。

丸浦副会長からは、田舎の良さというものを、他にないところの良さをどう売り出すかということの重要性を指摘していただきました。関西広域連合の加盟している地域はまさしく日本海から太平洋までありまして、まさしく日本の縮図でありますので、その日本の縮図をいかに生かすかということを中心に、観光とか、文化とか、あるいは地域振興という点で取り組んでいきたいと思っております。

水素ステーションの配置につきましては、水素ステーションの計画的な整備をしようということで、関西広域連合でも広域的な取組をしようということで相談をいたしてきております。実を言いますと兵庫県はもう既に水素ステーションの整備計画をつくりまして、推進を図っているところでございます。

それから、沖原副会長からインフラと、それからナショナル・レジリエンスの重要性についてご指摘をいただきました。日本列島をどう本当に使おうしているのか、関東圏だけで日本列島はいいんだと思っているのか、それとも日本列島全体を使いこなそうとしているのか、国土政策の方向性がどうもよく見えていない。特に、今年の6月か7月に出された新たな国土のグランドデザインでは、私はあれを読んだ限りでは、まさしく一極集中をピラミッド化して広げていったらいいんだというような、相変わらずのピラミッド主義が書かれているんじゃないかという懸念を非常に強くしております。



例えば、地方の一番最末端の機能を維持するために、コンパクトな拠点をつくる、そういう拠点主義というのが実を言うと失敗してきたんじゃないのかという思いがいたしまして、拠点ではなくて、一つ一つのサービスのエリアが違うわけですので、その一つ一つのサービスをどう連携させていくか、ネットワーク化でつないでいくか、そういう横のつながりというものの発想が必要なんではないか。コンパクトにまとめればいいんだという話ではないのではないかというふうに反論をしているところでございます。ともあれ、感想じみた回答になったかもしれませんが、どうぞよろしくご理解をいただきましたらと思います。

**○副広域連合長（仁坂吉伸）** 連合長からご指令をいただきましたので、今のお話の中では農業とインフラを担当しておりますので、それを申し上げます。

その前に、藤縄会長にジオパークで和歌山の南紀熊野ジオパークも覚えていただきましてありがとうございます。大先輩にはご指導いただいて頑張っていきたいと思えますし、それから今年の国際会議には、ぜひ我々も大いに参加させてもらいたいと思っております。

まず、インフラにつきましては、実は広域連合は、広域インフラの哲学的なものとして、例えばリダンダンシーをちゃんと考える等、インフラの基本的な考え方というのをまとめました。それを基にしまして、今から2年ほど前になるんですけど、高速道路ほか幹線道路、それから鉄道、できれば回廊もあってもいいと思っていたんですけども、そういうもののグランドデザインを描いて、例えば北陸新幹線の整備運動するときに、直接関係のない和歌山も含みみんなと同じことを言って、全体のインフラ整備を図ろうという運動を今しているわけです。

現状を申し上げますと、高速道路はきれいに整理ができてまして、資料は今日は行ってないかもしれませんが、みんなで使えるようになっております。鉄道は、残念ながら意見が対立いたしまして、そのグランドデザイン描けませんでした。それで、大変申しわけないんですが、そんな状態になっているということでございます。

実は、沖原副会長さんの先ほどのお話を聞いて、我が友、現われるというふうに思いました。片山会長さんが、私のかわりに随分言っていただいたんですけども、例えば和歌山では、随分インフラの整備、特に高速道路系の整備がものすごく遅れていて、今、日本一充足率が悪いところなんです。何とかしないと、チャンスが失われるというのはわかってるんですけども、そればかり言っても駄目だと、泣いても言うことは聞いてくれない。だからちゃんと日本と世界のことを議論して、正しいことを主張しようと、こういうふうに和歌山県はずっとやってきました。そういう意味では、先ほど沖原副会長さんが、関西のことだけじゃなくて、日本のことを考えてやるんだと言われたのは、本当に「我が意を得たり」という感がいたしました。

広域連合のインフラをやっている割には関経連のおやりになっている色々な運動について、連携をお願いしますという働きかけが、ちょっとおろそかになってるというふうに改めて思いましたので、またご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。一緒にやりたいということでもあります。

それから、農業につきましては、広域連合ができました時に、ちょっとおろそかになっていて、産業の一環であるということで、少し遅れて私が担当して、今ビジョンをつくったり、広域計画をつくったりしております。

大体大きく分けると二つぐらい目標があって、一つは地産地消でいきましょうというのと、もう一つは拡販をしていきましょうと。分類をするともう少しあるんですけど、大きく分けるとその二つになります。

地産地消は、ちょっとPRをさせていただきますと、農業の振興は、みんなそれぞれやっているもので、広域連合がそれを全部いただいて、統一的にやるというのはなかなか難しいんです。あまりお金をたくさん使えませんが、今、企業に美味しい関西応援企業というのをお勧めをして、それで社員食堂などで、関西の美味しい食材を使っていただくようなことを広げていきたいと考えています。担当委員としては、給食等に、もうちょっと追加的なお金をかけてでもやりたいなという気持ちはあるんです

が、まだ皆さんの理解を得られるところまで至っておりません。

もう一つは、おっしゃるように、まさに輸出をしていかないといけないということだと思っております。今、日本はこの農業の関係、あるいは食品の関係の輸出に関してはチャンスが二つあると思います。一つは安全です。もう一つは、おいしいということであります。「舶来上等」という言葉が我々子供のころありましたけども、「日本上等」で、しかも日本安全ですから、これはものすごいチャンスです。これも、それぞれの地域がそれぞれやっており、統一的にはなかなかできないと思いますけれども、我々もできるだけお互いに宣伝し合いするような形でやろうと。これは自発的に和歌山県がやってるんですけども、我々は香港と割合仲がいいので、それで見本市等に出店するときに、他県の企業や農業者にも「一緒に行きませんか」と声をかけて、「和歌山県でお世話だけしますので、お金は自分で払ってください、あるいはそれぞれの県なんかで助成もらってやってください」、こういう感じでお声をかけて、結構大阪の企業が一緒にやるという実績も上がりました。他県の事業者にも、ぜひそういうことを、緩やかではございますが、お勧めしてまいりたいなと思っております。

一つだけ、プロモーションは、関西広域連合含めてそれぞれ地方ができるんですが、一つだけできないことがあります。これは何かというと、検疫です。世界中で本当にとんでもない、むちゃくちゃな検疫が世の中まかり通っているわけです。放射能の時もむちゃくちゃでしたけども、それを日本の政府は戦う癖がついておりません。これは通産省と全く違うわけでありまして、全部守りですずっと今まで来たので、海外の検疫なんかたたき潰してやるぞという交渉をほとんどやる癖がついてない。これは、林大臣になってから随分変わってきましたけれども、まだまだこれで邪魔されて、色々なものが出ていけない。特にアメリカや中国という大市場にはものすごく苦戦をするというのは、実務をやっておられる人はよくおわかりだと思います。これは財界の方も、ぜひ、声を上げて言っていただきたい、そんなふうに思います。

それから、以上で担当のところは終わったんですけども、今日は忌憚ない意見とい

うことなので、二つだけ、自分の意見を申し上げます。

まず、権限移譲でございます。私は副連合長でございます、組織人でございますから、連合で決まったことは、ちゃんと一生懸命やるんですけども、自分の意見を申し上げますと、これまで広域連合がメーンのターゲットにしていた「丸ごと移管」。地方支分局の丸ごと移管というのは、何か不十分で詰まらないというふうに本当は思っています。

なぜかという、それは国の機能の一番大事なところは執行ではなくて、アロケーションだと思っているからです。アロケーションは全部中央でやってます。このアロケーションをいただかないと、我々下請になってしまう。下請のところを一生懸命取りにいても大しておもしろくないと心の中では思いながら、それもくれないのは、けしからんと言って運動は一生懸命やっています。

その観点からすると、アロケーションと関係のない国の本体の仕事をとってくるといふ部分には少し余地があると思ってます。例えば、番割で地方にばらまいてしまうような予算を各省とも結構持ってます。国もそれは初めから移管してしまっていていい訳です。そしたら我々はもっと効率よくやってやるぞということになるんです。

これが、例えば国道の維持・整備などは、そういうものだと思っています。

それから、もう一つは、この権限移譲とは違うと思いますが、国土の双極化という観点から、国の機関を丸ごと関西に来ていただくということはものすごく魅力的だなと思います。このときは、アロケーションの問題はここでやるわけですから、全然問題はないんですが、政治家あるいは官邸が常に関係しておきたい部署は、なかなかこっちへ持ってくるのは場所的に難しいかもしれません。だけど、そうでないような中央省庁の機関は絶対あるはずなんで、程度の問題ですけども、そんなものをいただいてこようじゃないですかと。和歌山は無理ですけど、京都なんかはどんどん来ていただいたらいいと思っております。

それから、景気の話ですけど、今、和歌山のような地方県はあんまり景気はよくあ

りません。なぜかという、これは消費不況です。理由は、従業員の賃金が上がらないからです。大いに儲かった全国的な大企業、特に輸出採算性を持っておられる大企業が、今度は材料を調達するとか、下請に代金を払うとか、運送サービスを受けるとか、そういうときの料金が全く上がってません。ちょっと言い過ぎましたが、もっと上げてもいいのではないかと思います。そっちのサービサーのほうは、実は地方に沢山いるわけです。その沢山いるところが、自分のところは今度は材料費は上がりますから、採算が逆に悪くなってるわけです。従業員の給料なんか上げられるわけがない、そうすると消費不況になる。これは、デフレ要因でとっても足を引っ張ると思ってます。

今、じっと観察してるんですけど、安倍さんは、財界のトップに、特に経団連のトップに給料上げてやってと事ある毎におっしゃいます。だけど本当は、今年言うべきは、価格転嫁してあげてと言うべきではないか、特に、皆さんのような組織は、傘下に中小企業をたくさん抱えておられると思います。そうすると、力を合わせて、それを政府に突きつけて運動にしていくということが、日本のために絶対必要だというふうに私は思います。

和歌山県というか、私個人ですけど、ものすごい運動してるんですけど、わかったと言いながら、なかなか大きな力にはなっていないというのが現状ではないでしょうか。今年の春闘のあたりがものすごい山場になるはずなんで、ただの給料上げてだけじゃなく、価格転嫁を認めてやれということをぜひ運動の一つにさせていただきたいなと思います。

もう一つは、日本の社会というのは、すぐ呪縛ができます。呪縛は二つ。一つは公共事業は悪だという、先ほどのインフラの話でもあると思います。景気をよくしていかないといけないんですが、もう一つは、こう言うと大変失礼かもしれませんが、規制緩和だけが種だと思い込まされているところがあると思います。キーワードは投資。その投資の中には、インフラのような公共投資もあるし、それは財政が大変ですから、

そればかりに依存はできませんが、もう一つは、民間の投資が盛んになるようなことをすればいい、その一環として規制緩和がある。だから、規制緩和を何でもやればいいというのではなく、投資を盛んにする一環として、戦略分野、例えば医療の周辺などでは、絶対にそれはあると思います。しかしながら、例えば、薬局のかわりにネットで売っていいことにしろと、それが成長だといわれる人がいますが、これ全く違うんじゃないかと思います。これは地方の雇用がむしろ減っていく話になるんじゃないかなと思います。もちろん消費者余剰とか、そういうもっと大きな社会正義を考えれば話は別かもしれませんが、景気とか、雇用とか、地方創生とか、地方の経済とかを考えれば、ちょっと違うんじゃないかなと思いますので、自分の意見を申し上げさせていただきます。

**○委員（山田啓二）** 京都府の山田でございます。私の担当は観光・文化でありまして、先ほどお話ししていると、本当に観光が多いなということがもう如実に出ておりました、非常に責任重大に感じております。やはり、その背景といたしまして、去年、訪日外国人旅行者数が1,000万人を超えたと思っていたら、あっという間に1,340万人までいったということがあります。観光客数が三十数%伸びて、そして消費額は6,000億円以上と急激に伸びたわけです。1年で6,000億円以上伸びる産業というのは、そう簡単にはないんじゃないかなと思うと、この観光産業のすごさを改めて実感させられます。

これで多分、日本はアジアでは今まで8番目だったんですけれども、シンガポール、韓国等と並んで5位グループぐらいになったんじゃないかなと思っております。そして、関西を見ましても、関空が630万人ですか、ようやく東日本の大震災から回復した2012年が360万人ですから、そこから400万人になり、600万人というものすごい伸びを記録しているわけでありまして。関西広域連合の海外プロモーションは、じりじりと関西という名を売り込んでいこうじゃないかと、そして関西の魅力を発信していこうじゃないかと、同時に、関西のそうした観光基盤を整えていこうじゃないかという

ことでやってきたんですけれども、かなり戦略自身の前倒し、スピード化を求められている。多分、このままでいくと、2015年の訪日外国人旅行者数は1,500万人を楽に超えるんじゃないかなと思います。

特に、伸びの中心になってくるのは中国、タイ、マレーシアあたりだと思いますけれども、中国が今年240万、83%、劇的な回復を遂げましたけれども、韓国に行っている中国人観光客数は2014年は589万人ともされており、それからすれば、240万人がいかに少ないかということですのですぐに400万人を超えるだろうと思っております。そして、タイとマレーシアが60万、20万という数字を記録しましたけれども、これもあつという間に七、八十万、そして三、四十万に上がってくるだろう。韓国や香港、台湾といった常連と合わせると、もう1,500万人なんてあつという間に超えてしまうところまでくる。このうち、大体約4割弱が関西を訪れてるわけですから、ものすごい勢いで、200万人増えればそれだけで80万の外国人が一遍に増えていくということになってまいりますので、観光に対する取組をとにかくスピードアップしていかなければならないというのが今の実感であります。

そうした中で、観光ネットワークを中心としたプロモーション、今まで中国、韓国、香港、そして去年はマレーシア、タイへ行ってまいりまして、こうしたことに対応しておりますけれども、「関西広域連合、今年来たね。他のところは毎年来てるよ。」ということをタイでも言われました。先ほどお話がありましたように、関西の商工会議所でも観光ネットワークをつくって海外に行かれています。そうしたことを踏まえ、関西広域連合の海外プロモーションは、今年度から細分化しようと思っております。今までのような大護送船団みたいに、みんなで行って、わっとやるのではなくて、効率的・効果的に小グループに分けて頻繁に行って関係を密にし、関西広域連合をしっかり売り込んでいきたいと思っておりますので、ぜひとも経済界の皆様と一緒にこの取組を進めさせていただきたいと思っております。

それから、関西の魅力発信につきましては、いろいろな方からお話がありました。

サイクリングロードの話ですとか、百舌鳥・古市古墳群の話ですとか、そうしたお話をいただいたわけでありまして、私どもといたしましても、まさに北前船やジオパークも含めて、関西の魅力を統一的に発信できることを強化していきたいと思っております。

今まで、「KANSAI 国際観光 YEAR」として食や、マンガ・アニメをPRしましたが、今年は世界遺産をテーマにしようと思っております。そして、その中で、百舌鳥・古市古墳群も古墳に関するフォーラム等をやっていききたいというように思っておりますし、やはり関西の魅力というのは、歴史文化の集積というものが非常にすぐれているところにあるわけですので、そうした点から申しますと、関西はこうした歴史文化の首都であるということを、これから定期的に発信していきたい。それは歴史にしっかりと依拠して発信していきたい。その中で、できれば29年が確か百舌鳥・古市古墳群の指定を目指しているときですから、このあたりの歴史とは古墳でやろうじゃないかと、それまではじゃあ、どれでやるのかといったようなことを今、関西観光・文化振興計画の中に盛り込んでおります。

もちろん、国際観光YEAR、これはどちらかというソフト、無形遺産関係と申しますか、ポップも含めてやってまいりましたので、この面も強化してまいりますし、文化の道として、人形浄瑠璃や、祭りや、そうしたこともやっておりますので、こういう文化のほうの道もしっかりとつくり上げていく中で、関西の魅力を発信していきたいと思っておりますし、広域ルートのお話もありましたけれども、三好が多分入っているのは、関西の秘境めぐりみたいなところで入ったと思うんですけど、そうしたいろんな原風景の魅力というのも、我々しっかりと広域ルートとして打ち出していききたいと思っております。

それからもう一つ、たくさんお話がありましたのは、先ほど連合長からもお話がありましたように、Wi-Fiの話であります。これにつきましては、大阪はフリーWi-Fiがあり、京都市ももう1,900ぐらいのポイントをつくっていくという話をし



ておりますし、神戸もやっていくというように、各事業者でやってきております。この面からすると、これは村尾代表幹事さんが専門家だから、よくご存じだと思うんですけども、その中で、我々が今、国も今一生懸命考えているのが、認証制度だけは統一化しようじゃないか、事業者は違っても、認証制度、入り口のところを統一すれば、1回認証すれば、あとはそれぞれ大阪や京都や神戸のW i - F i がそのまま使えるような仕組みにアプリを統一してやっていくことができないかということ、これは電気事業者や国土交通省、総務省、こうしたところと今研究会をつくってやってきております。そこで、ぜひともお願いをしたいのは、これは鉄道でやっていらっしゃるところもありますし、民間でもやっていらっしゃるところがあります。そして、公共団体でもやっているところもあります。ですから、それがこれから認証制度だけの統一化、つまり入り口の統一化に向かっては、みんなで協力しようじゃないかということ、ぜひとも経済界、そして地方公共団体の一つの意味として進めさせていただければ、多分東京より先に関西のほうがいけるかもしれないと思っております、その点を強化していきたいと思っております。

多機能の交通パスにつきましてもお話がありましたけれども、これもぜひとも関西の魅力として、我々も協力させていただきたいと思っております。

ちょうど観光に関しましては、「はなやか関西」を中心としまして、広域観光研究会をつくりまして、関西広域連合と経済界がいちばん密接に連携をとれている分野でありますので、これからも、関西観光につきまして、経済界の皆様としっかりと連携をして、一体的にこれからの取組を進めるようにしていきたいと思っております。

あと自分の担当外について、2点だけというか、地方創生について述べさせていただきたいんですけども、地方創生の中で、いろいろとご意見いただきましたのは、やはりインフラの問題でありました。私も実はこの問題については、石破大臣をはじめとして、地方創生の中で、インフラ格差がある限り、それぞれの地域の魅力が発揮できない、それでは不公平じゃないかと訴えました。安倍総理にも一つ間違えば弱肉強

食になりますということをお訴えたんですけども、その中でずっと言われてまいりましたのは、地方創生はインフラをやらないと。魅力発信、魅力づくりのソフトなので、インフラはやらないという話をずっと繰り返し述べられております。ですから、インフラの問題は、関西が共通、みんなで意思統一して向かっていく必要があるのではないかと考えております。リニア、これは名古屋までしかやらない、そしてその後は、関西のほうはまだこれから。それから北陸新幹線、金沢まで行って、次は敦賀で、その後はフリーゲージだと。それからこれは何とか凍結が解除されましたけれども、新名神。これやっぱり三大関西屈辱プロジェクトと、私は正直申し上げまして昔からひそかに呼んでいるんです。リニアの問題は、その上にさらに昭和48年に決まったこととして議論まで封じられている。関西広域連合をつくったとき、私の一番言いたかったことは、「関西のことは関西で決める、関西で議論して、関西で決める」というもので、その議論まで封じられると、屈辱の上に屈辱になってしまうのですが、これはさておきまして、そうした問題について、やはり関西として、きちっと団結をして、関西広域連合と経済界の皆さん、こんなことでは、地方創生ではないじゃないかということをお強く訴えていく必要があるのではないかと考えております。

さらに、京都のことで申しますと、双京構想について取り上げていただきましてありがとうございます。やはり関西の魅力は文化であります。この点について、かつて1回だった園遊会が、2回に増えたときにどうして関西に来なかったんだろうと。来たっていいじゃないかと。陛下の即位10年の茶会は臨時で京都で行われまして、そして20年の茶会的时候は、正式に東京と京都で行われているんです。皇室の行事が正式なものになったというひとつの例があります。さらに、七夕とか、そうしたかつて皇室行事であったものが明治に東京に移った際に失われている。我々はやはり関西からこそ日本の文化を発信できる体制を整えていきたい。そうした面での首都機能の移転として、文化庁や観光庁についても努力をしていきたいなと考えているところであります。

特区につきましては、本当にスピード感がない、もうそれに尽きる。我々は先ほどのインフラと同じように、スピード感を持って、そうでなければ地方創生、そういうものを政府が求めるのはおかしいということをしつかりと言っていく必要があると感じております。

以上です。

○委員（飯泉嘉門）　それでは次に、広域医療の関係で、小嶋副会頭さんのほうからいただきまして、連合長のほうからも「医療首都関西」を打ち出していくんだと、実は今年、非常にいいタイミングで、前半そろっているところです。一つは、小嶋副会頭さんからも言っていました「メディカルジャパン2015大阪」、これがインテックス大阪で行われるということで、関西広域連合も特別協力を行っているところであります。

これ2月4日から6日まであるんですが、5日には私が講演させていただく予定で、その中で、関西広域連合でのドクターヘリの活用であるとか、あるいは東日本大震災でのカウンターパート、そうした活躍ぶりであるとか、こうしたものを広くPRさせていただこうと、このように考えております。

そして、さらに今度は、これは今日お越しの皆様方、いわゆる関経連、経済同友会、そして京都・大阪・神戸のそれぞれの商工会議所の皆さん方と、我々関西広域連合とともに共催をしていきます3月20日から3月22日までの「医と健康フォーラム2015関西」ということで、こちらはグランフロント大阪・ナレッジプラザ、こちらのほうで開催をさせていただきまして、特にオープニング行事である3月20日、これは森会長さん、まずご挨拶をいただいて、井戸連合長からもお話をいただくことになっております。先ほど、何度もお名前が出てまいります日本医学会総会、これを率いる井村先生からも基調講演を行っていただくこととしております。

しかも、市民の皆様方の参加が要るんじゃないか、協力が要るんじゃないかといった点について、こちらについては、実は一般市民の皆様方、開放とともに、特に3

月21、22日、ここについては、市民の皆さん方を対象とする「健康市民フェスタ」、こちらを開催をさせていただき運びとなっております、これはまさに、関西経済界の皆様方とのコラボレーションということになります。

そして、今度は場所を神戸に移して、「日本医学会総会2015関西」の一般公開展示「未来医XP0'15」、まずこちらが3月28日から4月5日まで行われます。しかも、これは市民に開放ということで、25万人の市民の皆さん方の参加を目標に開催しよう、というものであります。

また、その後、4月11日から13日、今度は場所を京都に移しまして、京都国際会館ほかで、今度は「学術講演」が行われます。そして、ここの中で関西広域連合についてパネル展示等により、PRを我々させていただき運びとなっております、まさに「医療首都関西」としての打ち出し、ここにありと言っても過言でありませぬので、ぜひ皆様方のご協力と、逆に言うと皆様方とともに頑張っていければと考えております。

あと、それ以外で2点付言をさせていただきたいと思っております。

一つは、角副会長さんからお話のありましたインバウンドの受け皿づくりの話です。今、山田委員からもお話がありましたように、恐らく2015年、かなりの数になりますし、まさに東京オリンピックの2020年、2,000万人超えちゃうんじゃないかと思うんですね。そこで、先ほども丸浦副会長さんからもお話のあった、実は今、「徳島 v s 東京」、これを打ち出して地方創生、東京一極集中の打破、こうしたものを新しい価値観として打ち出そうと、12月に舩添都知事と都庁で会談をしたんですね。このときに、逆に協力要請がありまして、はっきり言って、首都圏での、いわゆるイン・アウト、もう限界と。これはぜひ関西で引き受けてほしいと。そうしないと2,000万人も到底無理だろうと。ぜひ、関西イン、そして例えば東京でオリンピックを見て、羽田からアウトとか、成田からアウトとか、その逆とか、こうした点をぜひ引き受けてもらいたいというお話がありました。

そうした意味で、これからは、まさに我々関西のほうが、何ととっても関西、大阪湾ベイエリアの中に5空港、しかも滑走路は7本あるんですね。ですから、これだけの社会資本の集積というのは、実は世界にまれなんですね。ただ、これらが有機的に結びつかないからばらばらになる。

先ほど仁坂副連合長からもお話がありましたように、こうしたものを、例えば高速道路で結ぶ、あるいは今、この関西のリニアのあり方として、特に堺市の皆さん方は関空にリニアを入れたらどうだ、新幹線を入れたらどうだと、これは大阪全体で言われてる話なんですけど、こうした有機的な、沖原副会長さんからもお話のあったランドデザインをもっともっと打ち出さないといけない。

何ととっても、この地方創生は、ただそれで終わるのではなくて、まさに日本創生は地方創生がなかりせばできないんだと、このように国のほうでは言い切っているところでもありますので、我々関西からこうしたランドデザイン、もちろん井戸連合長が先ほど申し上げたように、二眼レフ構造ですね、いつ何どき首都直下型地震が起こるかわからない。だから、そうした意味も考えて、我々関西がしっかりとこうした点についてももっともっと国に、これは経済界、そして我々行政が一体となって打ち出していかないと、なかなか説得力がないと、このように思いますので、ぜひこの点についてはよろしく、と同時に進めていければと、このように考えております。

そして、最後は文化とスポーツのかかわりです。先ほどから文化は関西だ、でも東京オリンピック、いやいや、それだけじゃない、ラグビーのワールドカップが前年にあり、その後にはワールドマスターズゲームズがあるんだ、関西でということ。これについては、実は全国知事会、山田会長がここにおられますが、ここでオリンピックの祭典というだけではなくて、それをバックアップするために、この「カルチュラル・オリンピアード」というのは、実はこれ商標登録されておるんですが、ロンドンオリンピックのときに、この文化の祭典でもあると、4年間をかけて、そしてその集大成がロンドンオリンピックの開幕式になると、こうした話も実は出たんですね。と

ということで、これをロンドンオリンピックだけというのはもったいないじゃないか、これを東京オリンピック・パラリンピックでやっていこうと。実は全国知事会の中では、井戸連合長から発言をいたしまして、既にそうした文化の祭典としてもやっていこうということで、これは逆に言うと、この2020年の東京オリンピック・パラリンピックあるいはインバウンド2,000万人と、こうしたものに対しての大きな戦略となってくると思いますので、ぜひこの意味でも、もっともったこの文化、先ほど世界遺産の話もあったわけでありますが、こうしたものを掘り起こして、そして2,000万人なんてケチな話を言うんでなくて、もっとそれ以上のものを、そしてこの引き受け手こそ、我々関西がやるんだと、こうした気概で臨んでいければと思いますので、この点につきましても連携をぜひよろしくお願いを申し上げたいと思います。

以上です。

**○委員（門川大作）** ありがとうございます。それぞれのご意見賜って、全くそのとおりだなと思っております。

京都市は京都府とともに、観光・文化を担当させていただいています。それぞれお話がありましたように、関西の強みは、それぞれの地域の個性を大事にし、そしてしっかりと連携するということだと思います。

おかげさんで、観光、インバウンド含めて関西、非常に順調ですけれども、危機的なものも感じております。したがって、魅力をいかに生かして、掘り下げ、かつ連携するかということだと思います。

一つはそういう魅力の発信、もう一つは不満をゼロにしていくという意味で、Wi-Fiの問題も、多言語対応の問題も、買い物環境の問題も、ハラル対応とか、それぞれのことをやっていますけど、もっと掘り下げんならんと。そのときに、人です。観光の専門家、おもてなしということを一生懸命みんな言ってます。そのおもてなしの専門家、最前線は、ホテル、旅館に働く人であり、かつ飲食店に働く人であり、ところが、京都市、これだけ観光が順調で、もう外国人だらけです。観光客い

っばいです。でも、リーマンショック前の税収からまだ1割下がったまま、なぜか。京都市内で製造業の非正規率は3割です。卸売・小売は5割です。全国平均、そういうもんやと思います。ところが、観光の主力である宿泊業、飲食業の75%が非正規であります。したがって、伝統産業等が厳しくなって、観光にシフトしていくが、そこは非正規の雇用の場である。したがって、沖縄、北海道に次いで京都は非正規率が高くなっている。観光立国日本ができたときに、その主力の産業に働く人は75%が非正規である。これで地方創生はできない。次の世代は生まれませんと思います。

したがって、観光で安定した雇用をつくる、正規雇用をつくる、賃金を上げる、これを全国津々浦々でやっていかなければ、「忙しい、忙しい、ようけ来てくれはった。でも、そこはパート労働者だ。」、こんなが続くはずがないです。「あなたのお父さん、大会社へ勤めてはる、お母さん、学校の先生してはる。ふーん。」って、「あなたのお父さんは旅館で働いてはる、お母さん仲居さんしてはる。うわっ、おもてなしの専門家やな、すばらしい。私も大学出て、英語も中国語も勉強して仲居さんになろう、旅館で働こう、飲食店で働こう。」、料理人は確保できるけど、仲居は確保できないと。これ、5年後、10年後、世界から2,000万人来はったけど、その仲居さんがパートばっかし、こんなことが成り立つはずがない。したがって、観光の専門家を育てる、そして観光に積極的な、人も含めて投資をしていただく、これなしに観光立国はならないし、地方創生もないと。嫌なことを言いますが、このところが持続可能な観光にしていく、観光立国にしていく、京都が比較的その先を走っている、その我々が今痛感していることであります。

ぜひとも関西の経済界の方々のご英断をお願いしたいですし、同時に、京都の不満は、宿泊施設が足りないということでございます。外国の資本が宿泊施設を最近作り出していただいていますけど、ぜひ関西の資本でよろしゅうお願いしたいと思っています。

もう1点、地方創生、東京一極集中打破で、今、お話しいただきましたし、山田委

員からもお話ありましたが、文化庁、観光庁、中小企業庁等を関西へということをやより大きく言っていかなければならないと思いますし、首都機能のバックアップということで「双京構想」、皇室のどなたかを京都御所に。歴代の天皇の御大典が東京で行われたのは、平成の天皇が初めてであります。元旦にNHKで京都御所のことが報道、特集されましたけど、京都御所では、いつでも皇室の方がお住まいできる、また御大典もということをや、非常に難しい問題ですけど、関西から言っていかなければならないんじゃないかなと。特に関東大震災で宮家の方が3名落命されております。東京に皇室の方が全部お住まいであるというのは、日本の宝、皇室の弥栄のためにも、大変なことありますので、関西から言っていかなければならないんじゃないかなと思います。

もう1点だけ、ちょっと気になる最近の動きがあります。地方創生、首都圏から一極集中打破という動きはありがたいんですけども、工場・企業の本社等が移転する場合に、東京一極集中打破やのに、中部と京阪神が除外される、あるいは大学の入学定員の規制で、東京とともに名古屋圏と京阪神が東京と一緒に扱われる。工場等制限法の復活のような気配すら感じます。それらについても、ぜひよろしくお願いたいなと思っています。

広域連合の皆さんと、また経済界の皆さんとしっかりと連携しながら、とりわけ関空のリニアの問題も含めて取り組んでまいりたいと思いますので、よろしくお願ひします。

**○事務局長（中塚則男）** 三日月委員、竹山委員の発言の前に、ちょっと済みません、佐藤会頭からご発言。

**○大阪商工会議所会頭（佐藤茂雄）** 黙って聞いてると疲れるもんですから。ちょっとしゃべらせていただきますけど、さっき連合長がおっしゃってましたホテルの供給不足、これはUSJの効果で、周辺部まで宿泊ゾーンが広がってきた、つまり広域型の観光になってきたということで、これは私は大いに評価すべきことだと思ってま



す。

しかし、今後、それでも足らずに供給不足になる。これは考えないといけない。その場合に、門川委員にお返ししますけど、これやっぱり規制緩和、もうちょっとやってもらわないと。高さ制限とか。経済は経済の法則で、利益が出るところはどんどんつくりますよ。ほっといても大丈夫。だけども、規制緩和がなされてない。高さ制限、私が社長のときの空いていた土地に、まだホテルが建っていない。京都市内です。国に規制緩和を求めるだけではなくって、みずから皆さん方が規制緩和に努力していただかないといけない。こういう問題だと思います。

それから、リニア、山田委員にここではっきり言っていただきたい。協議会の同じテーブルに着いてやっていこう。団結して、ルートは決まってるんですから、関西は早期開業という同じ意見を持って臨まないと、国から何だと言われるわけですよ。これをお願いしたいですね。

それからあと、ついでに言わせていただきますけど、北前船、これは今年大阪でやることになってますから、ぜひ応援をいただきたい。

それから、価格転嫁、これは商工会議所全部が言ってますけど、なかなか進まん。これはぜひ安倍総理に言っていただくように、仁坂副連合長のお力添えをいただきたいと、こう思います。

それから、カルチュラル・オリンピアド、こんなん、大商は相当声を大にして言ってるんですけど、全然書いてないじゃないですか、この中に。予算とかの中に。書いてますか。ロンドンや、シドニーの事例を踏まえて、何かもうちょっと具体的に入れていただかないと、総意にならないと思うんですよ。ぜひお願い申し上げたいと思います。

**○委員（竹山修身）** お願いを兼ねてのお話をさせていただきます。先ほど、前田会頭からもお話がありましたように、百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録でございます。今年、国内推薦を目指しています。ぜひとも、皆さん方のお力添えをいただ

きたいと思っています。

そして、2年後、平成29年には、世界文化遺産ユネスコ登録ということです。これまで大阪府さん、羽曳野市さん、藤井寺市さんと一緒に、いろんな講演会をしたり、ウォーキングイベントをしたり、シンポジウムをやってきました。集大成を今年やっていって、国内推薦につなげたいと思います。関西では10年ぶりです。紀伊山地の霊場と参詣道以来の10年ぶりです。私どもは、やはりこの世界文化遺産になることの経済波及効果も非常に大きいものがあると思っています。

関西大学の宮本教授の試算では、大阪府域で360億、そして関西含めたら500億の経済波及効果があるのではないかとされています。

また、大阪府では156万人の方々が大阪府に来ると言われています。例えば、世界文化遺産に認定されました群馬県の富岡市では、昨年度は年間31万人でしたが、現在、8カ月でもう100万人を超えているんですね。私ども、堺及び泉州というのは、観光についてはマイナーなところでした。京都や奈良は、非常にメジャーでしたので、世界文化遺産になっても、そんなに上がりませんが、堺や泉州は伸びしろがあります。ぜひ、そういった意味で、大阪、関西への波及効果をしっかりと皆さん方とともに享受したいと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思っています。

それともう一つ、自転車、サイクリングの話です。堺は自転車部品の5割以上を占めているところです。そういう意味で、これは、まさに先ほど申しましたが、仁徳天皇陵をつくったときから金属加工が進んでるんです。埋蔵物もそういう金属加工が進んでいて、それが鉄砲になって、自転車になってるという、そういう鑄造、鍛造の技術を受け継いでいるわけです。そういった、近代自転車産業をしっかりと支えるためにも、私どもは和歌山の皆さんとも連携しながら、泉州9市4町でサイクリングロードを整備しようということを今やってるところです。ぜひとも、そういう意味で、基礎自治体と和歌山の基礎自治体、府下と和歌山が結びつきながらやっていきたい、そして広域自治体の連携もぜひともいただきたいと思っています。泉州サイクルロード構想

の検討に着手しています。そして、自転車道のマップの作成、そしてレンタル自転車の推進など、ハード・ソフト両面でサイクリングを楽しんでいただける、外国の方も含めてサイクリングを楽しんでいただける状況をつくっていきたいと思っています。

最後に、まち・ひと・しごとが、今大きなテーマになっています。これを担うのは、私は広域自治体ではなく、基礎自治体を中心、市町村が中心であると思います。今、市町村の中でコミュニティービジネスやスモールビジネス、ソーシャルビジネスを起こしていくことが、それぞれの創意工夫の中でやられています。例えば、高齢者の介護、そして子供さんの保育、さらには農業やお年寄りに対する配食サービス、こういったものは、まさにコミュニティーでできるわけです。そこに仕事をつくっていく、その担い手は同じようなお年寄りであったり、女性であったり、障害を持ってる皆さん方であると思います。そういうところから仕事を起こしていくことが私どもは絶対必要であると思っています。皆さん方のお力を得て、そういうふうな地域から仕事を起こす、そういったお手伝いをお願いしたいと思っています。

私からは以上です。

**○事務局長（中塚則男）** それでは、三日月委員、植田副委員、鳥居副委員の順で発言をお願いします。

**○委員（三日月大造）** 滋賀県知事の三日月大造です。広域連合では環境保全を担当させていただいております。

丸浦副会長から次世代自動車、燃料電池自動車のお話がありました。

お手元資料1の23ページのところで、環境保全の分野では、電気自動車普及促進事業という項目があります。燃料電池自動車と、ここには明示しておりませんが、電気自動車のみならず、燃料電池自動車についても、それぞれの自治体の取組を束ねながら、普及啓発に取り組んでいこうということを先だつての広域連合委員会の中でも確認をさせていただいておりますので、ぜひ水素ステーションの設置状況の把握や普及も含めて、取り組んでまいりたいと思います。

もう1点は、今日、このMother Lakeと称した伊藤園さんの「おーいお茶」を皆さんにお飲みいただいております。平成20年から毎年取り組んでいただいているのですが、先ほど、官民が連携した事業展開というお話が大阪商工会議所の小嶋副会頭や大道会長からありましたが、ぜひ行政だけでなく、民間企業も巻き込んだ環境保全の取組をより一層展開していけるように、そして、そのときにはマーケットポリシーからいって、やはり関西という広域のメリットが活かせる取組につなげていけるように、さらに頑張ってもらいたいと思います。

よろしく願いいたします。

○副委員（植田 浩） 大阪副知事の植田でございます。本日は、松井知事、公務の関係で出席かないません、冒頭、おわび申し上げたいと思います。

私のほうで、広域産業振興と特区の関係を担当させていただいております。既に、井戸連合長あるいは山田委員、飯泉委員などから発言がございましたので、基本的にはそれに尽きると思っておりますが、一つ、特区の関係、規制改革ですが、やはりスピード感が大事だと思っております。去年の3月に関西圏が指定地域とされてから1年が経ちますが、認定された規制改革項目は3項目、医療関係二つと、雇用・労働関係一つにとどまっております。また、その内容を議論する区域会議、これは国、地方公共団体、民間事業者で内容を議論するものですが、これもまだ2回しか行われておらず、早急に第3回目を開催するべく、環境整備に努めているところでございますのでご理解をお願いしたいと思います。

それから、細かい点ですけれども、広域産業振興の関係で、堺商工会議所の前田会頭と、それから大阪商工会議所の小嶋副会頭からも若干ご意見がございました、ビジネスマッチングの関係でございます。広域産業振興を広域連合で行う中で、大変重要な項目の一つと思っております。来年度から大企業と中小企業のビジネスマッチングについて、広域連合の組織・枠組みを生かしまして、構成の府県市が実施する、各府県が実施するマッチングについて、広域連合も一緒に関わらせていただくということ

で、広域連合の域内の企業もそのマッチングに参加できるような形でやっていきたいということも考えているところでございます。

いずれにしても、中小企業を中心とした企業の振興は大変重要なことだと思っておりますので、これからも努力していきたいと思っております。

平成24年に「関西広域産業ビジョン2011」というのを作りまして、これに基づいて今後とも経済界の方々と協力・連携しながら進めていきたいと思っております。

以上でございます。

**○副委員（鳥居 聡）** すみません、神戸市の鳥居でございます。いつもお世話になりましてありがとうございます。本来なら久元が来てご挨拶すべきですけど、私のほうがかわってお話しさせていただきます。

一言だけ、サミットについてのお礼を申し上げておきたいと思えます。おかげをもちまして、外務省のほうに私が書類を、申請に持っていかせていただきましたけど、今回につきましては、関西の経済界も皆さん一致していただいている、そして広域連合のほうの構成の府県市も一体となって一緒に要望するという形をとらせていただいておりますので、本当にありがとうございます。

外務省からは、この点につきまして非常に高い評価をいただいております。本当にありがとうございます。

関西一つ一つとかいうような言葉もいろいろありまして、なかなか一致しないという側面があるのかもしれないんですけど、反対言えば、関西が一つにまとまったときの、その強さ、それをちょっと今回は実感をさせていただきました。

事務レベルではいろいろ協議を外務省ともさせていただいておりますが、井戸連合長のお話にもありましたように、警備の面とかから申し上げましても、かなり、事務レベル的にはいい線いってるんじゃないかなと思っております。

今後は、政治的な、いろんな絡みも絡まってくると思いますので、今後とも引き続き皆様方のご支援をお願いして、ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願

いたします。ありがとうございました。

○事務局長（中塚則男） それでは、予定の時間が参っておりますので、最後に連合長と森会長から一言ずつ、コメントをいただきたいと思います。

まず、井戸連合長、よろしくお願いします。

○広域連合長（井戸敏三） 大変活発なご議論をいただきましてありがとうございました。

まだまだ具体論にはわたっておりませんが、視点の重要性をいろいろな形でご指摘いただいたのではないかと思います。今日の基本的な考え方を十分踏まえまして、私ども広域連合としても、具体化について努力をしていくようにしていきたいと思っております。

行動できる広域連合をぜひ目指していきたい、このように決意をしておりますので、今後とものご指導をよろしくお願いいたします。

○事務局長（中塚則男） 森会長、お願いします。

○関西経済連合会会長（森 詳介） 本日は、本当に大変お忙しい中、我々経済界と懇談の機会を賜りまして、本当にありがとうございました。

意見交換のほうも、本当に忌憚のない意見交換ができたというふうに思っております。特に、経済界から、さまざまな要望、意見等申し上げましたけれども、井戸連合長をはじめ、皆様方から非常に丁寧に考え方をお示しいただいて、感謝いたしております。

しかし、これから大事なことは、やはり皆さんからもそのようなお話出てましたけれども、スピーディーに実行することだと思います。もちろん、まだ考え方だけで具体的なアクションを起こすような段階まで煮詰まってない問題もありますけれども、煮詰まった問題からお互いに力を合わせて、スピーディーに実行に移す、そのことが関西の発展につながっていくと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いします。

本日はどうもありがとうございました。

○事務局長（中塚則男）　　ありがとうございました。

それでは、これもちまして意見交換会を終わらせていただきます。

本日はお忙しい中、ご出席ありがとうございました。

閉会　午後 3 時 0 0 分